

I 鳥取県の住みやすさについて

問1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか。(〇は1つ)

～鳥取県に対しての愛着や誇りを感じている人が約7割～

鳥取県に対する愛着や誇りは、「感じている」が49.6%、「少し感じている」が24.4%と、愛着や誇りを感じている人が74.0%となっている。一方、「あまり感じていない」が3.3%、「感じていない」が1.2%と愛着や誇りを感じていない人は、4.5%と1割に満たない。

平成28年度-令和3年度を比較してみると、「感じている」「少し感じている」の合計は28年度が約8割と最も割合が高く、29年度以降は約7割とほぼ横ばいで推移しているが、2年度は前年度より3ポイント増加し、令和3年度もほぼ横ばいとなっている。

年代別でみると、愛着や誇りを「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、70歳以上が最も高く、20歳代が最も低くなっている。

性・年代別でみると、「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、男女ともに70歳以上が最も高く、また、女性では30歳代が高くなっている。

地域別でみると、「感じている」「少し感じている」を合わせた割合は、西部地区が他の地域に比べ高くなっている。

図1 鳥取県に対して愛着や誇りを感じているか(n=1,644)

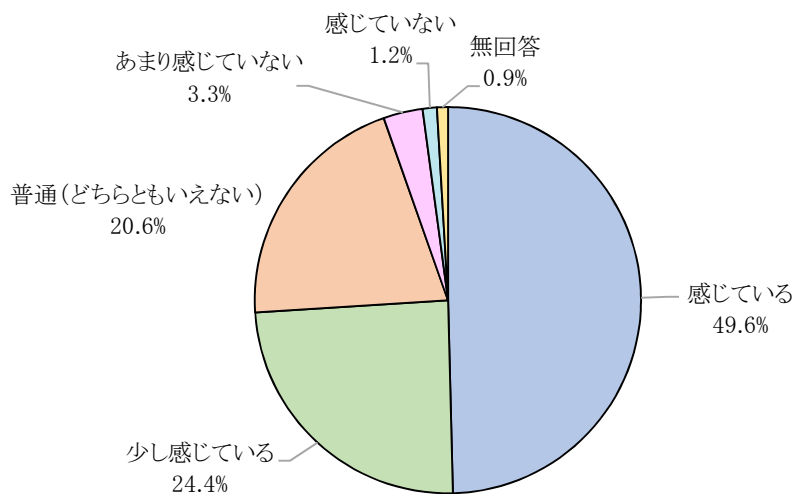


図2 鳥取県に対して愛着や誇りを感じているか(年次比較)

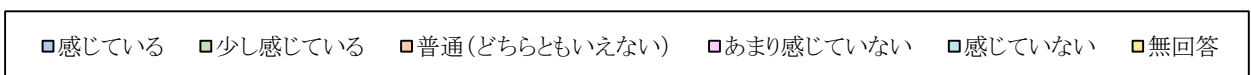
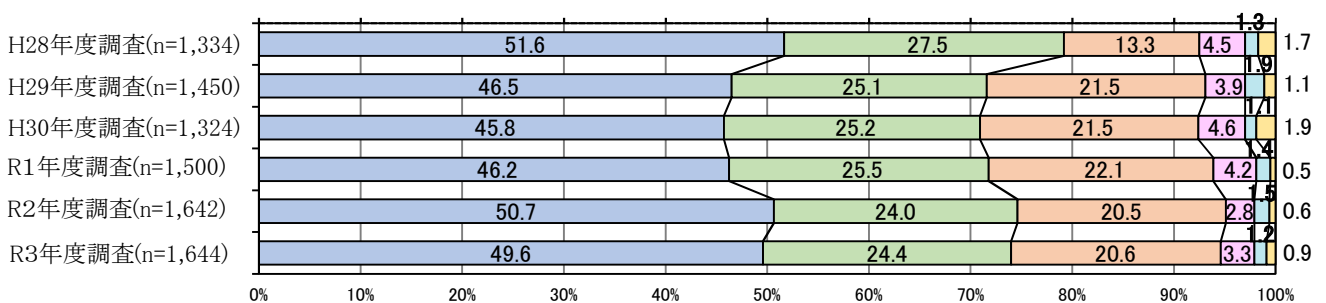
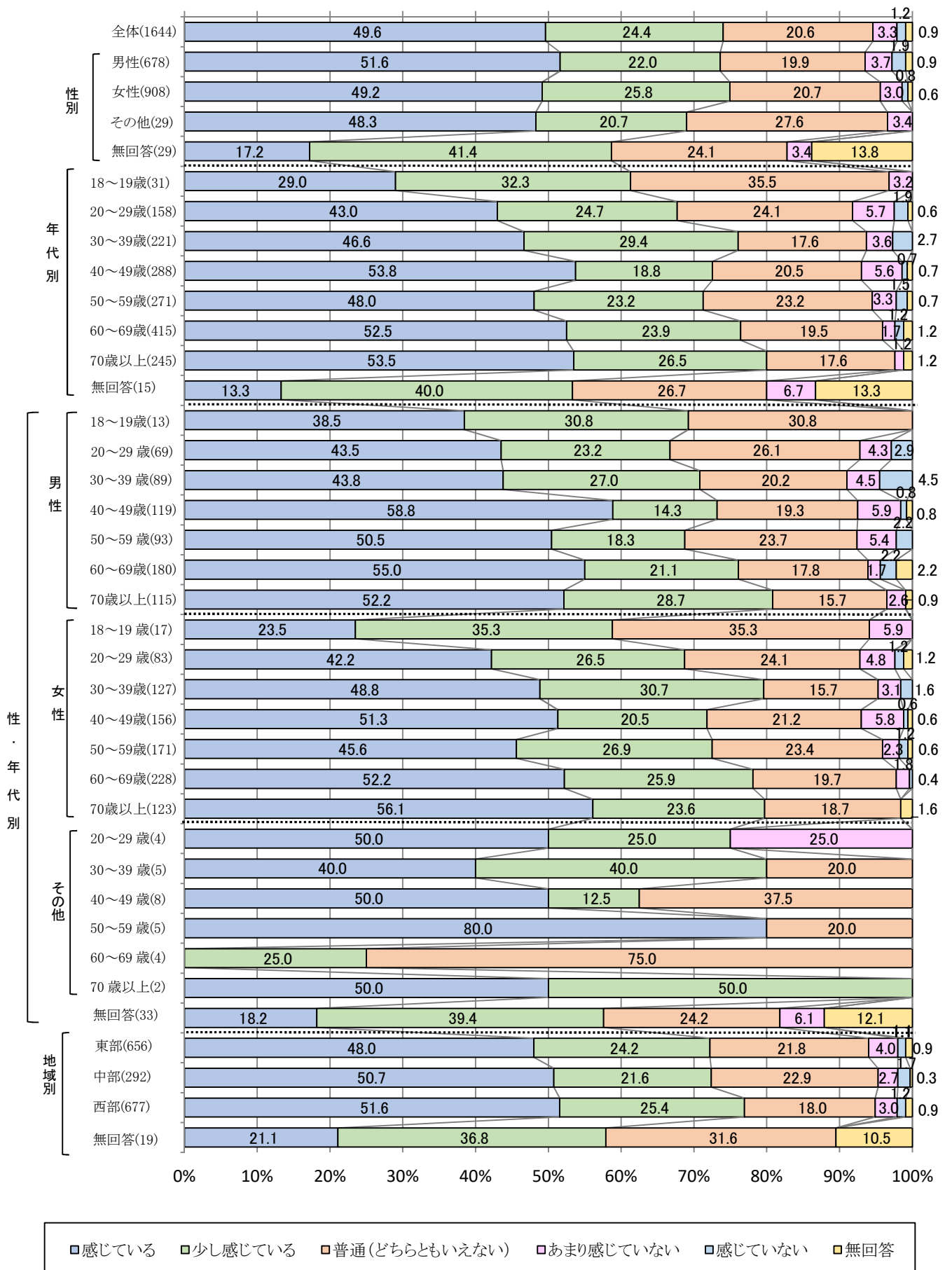


図3 鳥取県に対して愛着や誇りを感じているか(性別・年代別・地域別)



問2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください。(〇は1つ)

～「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせると7割弱の人が住みやすいと回答～

今暮らしている地域の住みやすさは、「とても住みやすい」が22.7%、「どちらかという住みやすい」が45.1%で、住みやすいと答えている人が合わせて67.8%となっている。

一方、「どちらかという住みにくい」が6.6%、「住みにくい」が2.0%で、住みにくいと答えている人は合わせて8.6%となっている。

平成28年度-令和3年度を比較してみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」の合計は、28年度の74.9%が最も割合が高く、29年度以降は減少傾向にあった。2年度は前年度より9.4ポイントの増加となったが、3年度は2.9ポイント減少している。

年代別でみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせた割合は、60歳代が高く、20歳代が最も低くなっている。

性・年代別でみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせた割合は、男性は30歳代と60歳代以上が高く、女性は全ての年代において高くなっている。

地域別でみると、「とても住みやすい」「どちらかという住みやすい」を合わせた割合は、西部地区が他の地域に比べ高くなっている。

図4 今暮らしている地域の住みやすさ(n=1,644)

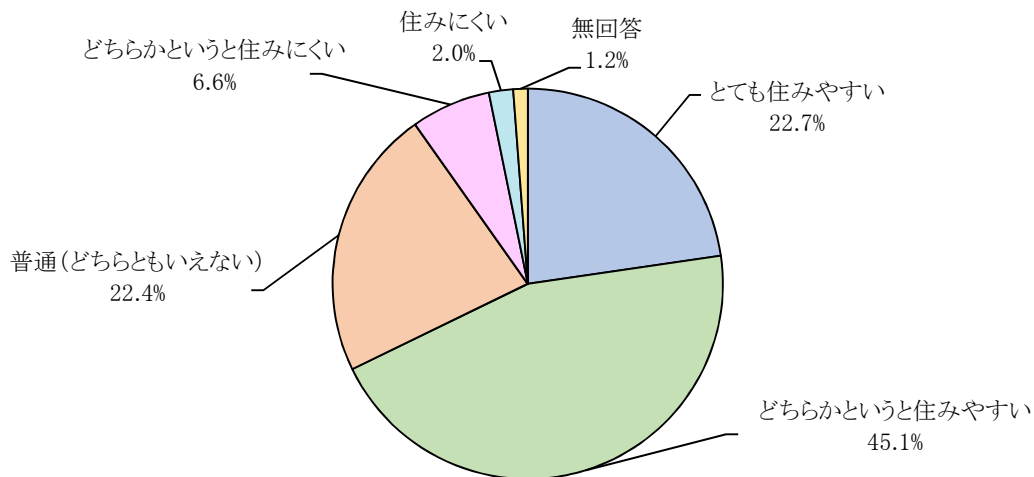


図5 今暮らしている地域の住みやすさ(年次比較)

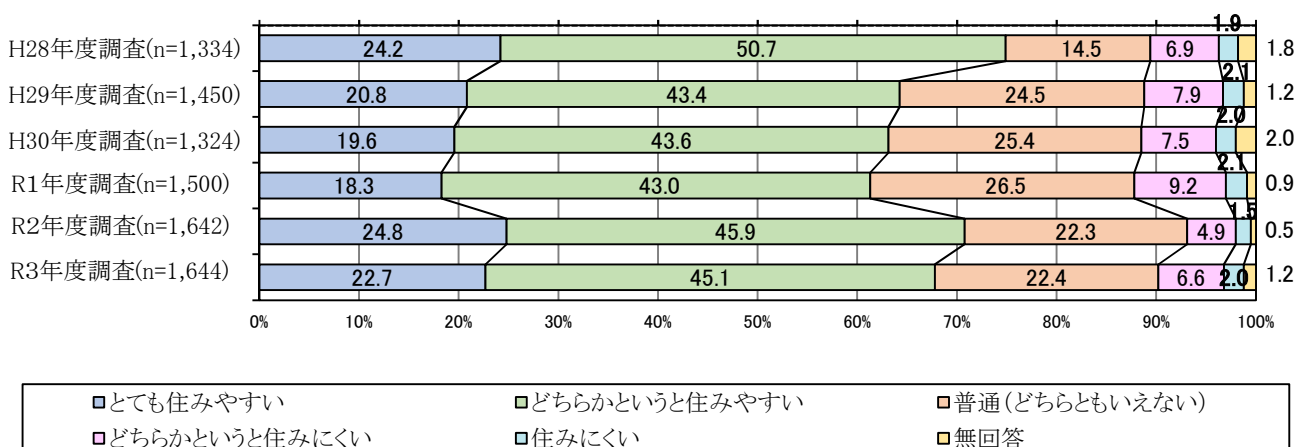
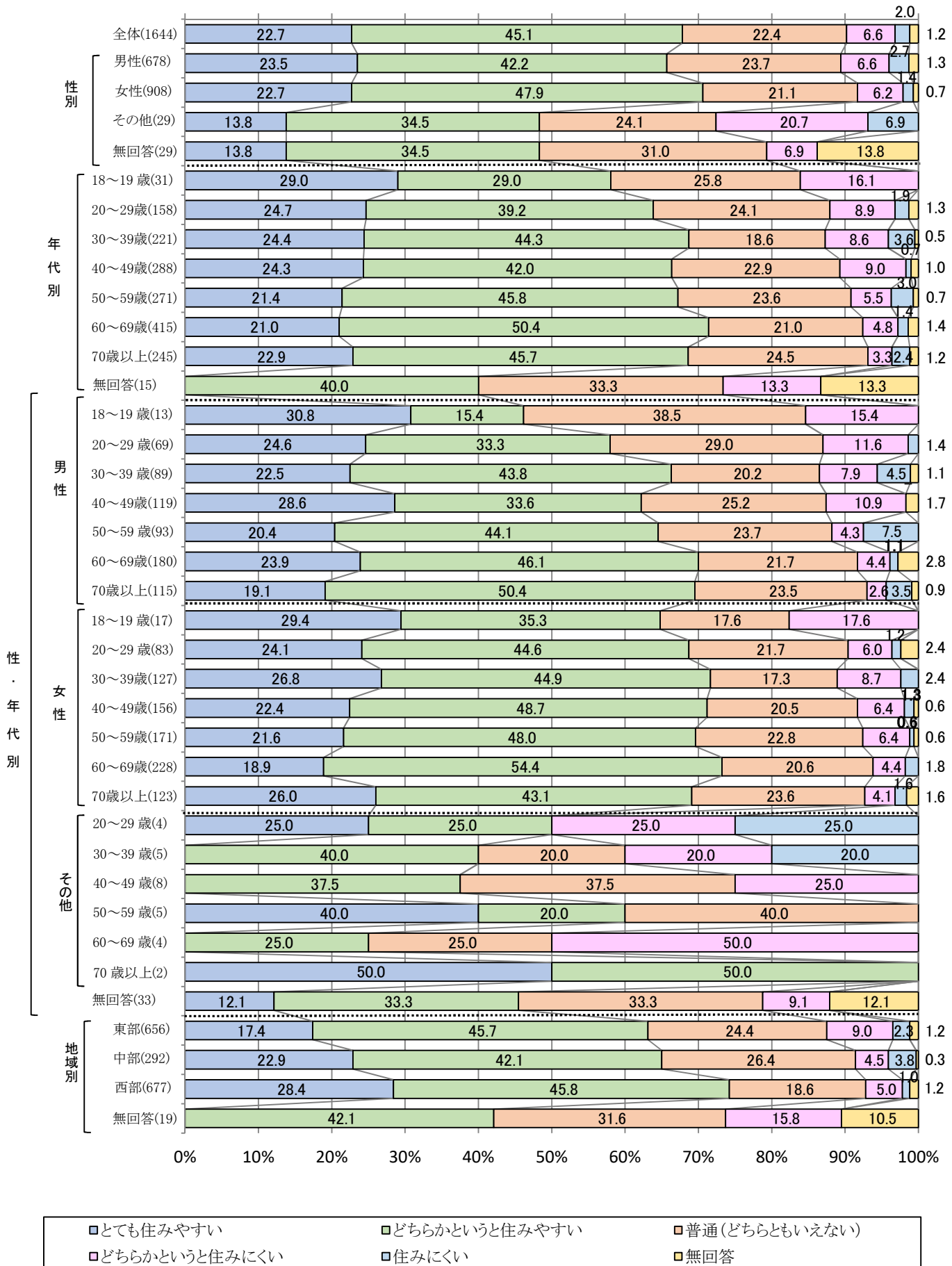


図6 今暮らしている地域の住みやすさ(性別・年代別・地域別)



**問3 鳥取県に暮らしていて、次の項目(設問)についてどう思われますか。
項目ごとにいずれかに○を記入してください。**

～「豊かな自然環境に恵まれている」と思う人が約9割～

鳥取県に暮らしていてよく感じる(そう思う)項目は、上位項目では「豊かな自然環境に恵まれている」が89.2%と最も割合が高く、次いで「地域の治安が良いと感じている」が69.6%、「住んでいる住民(県民)が親切である」が57.5%、「地域での人と人とのつながりがある」が49.0%と続き、自然環境、治安、人とのつながりを鳥取県に暮らす良い面として答えている。

一方、鳥取県に暮らしていて良いと感じない(そう思わない)項目は、上位項目では「生活するにあたり、公共交通機関が整っている」が53.0%で最も割合が高く、次いで「地域の防災組織が整っている」が14.8%、「ストレスなく日常生活を送ることができている」が13.4%と続いている。

平成28年度-令和3年度を比較してみると、「豊かな自然環境に恵まれている」は、よく感じる(そう思う)との回答が全ての年度で約9割、「住んでいる住民(県民)が親切である」は概ね5割台、「地域の治安が良いと感じている」は全ての年度で6割台となっているが上昇傾向が認められる。また、「地域での人と人とのつながりがある」は5割台で推移していたが、3年度は前年度に比べ5ポイント以上減少し、5割を下回っている。

一方、「生活するにあたり、公共交通機関が整っている」は全ての年度で1割台に、「地域の防災組織が整っている」「子どもの教育環境が充実している」は全ての年度で2割台となっている。

図7 鳥取県の暮らしについて(n=1,644)

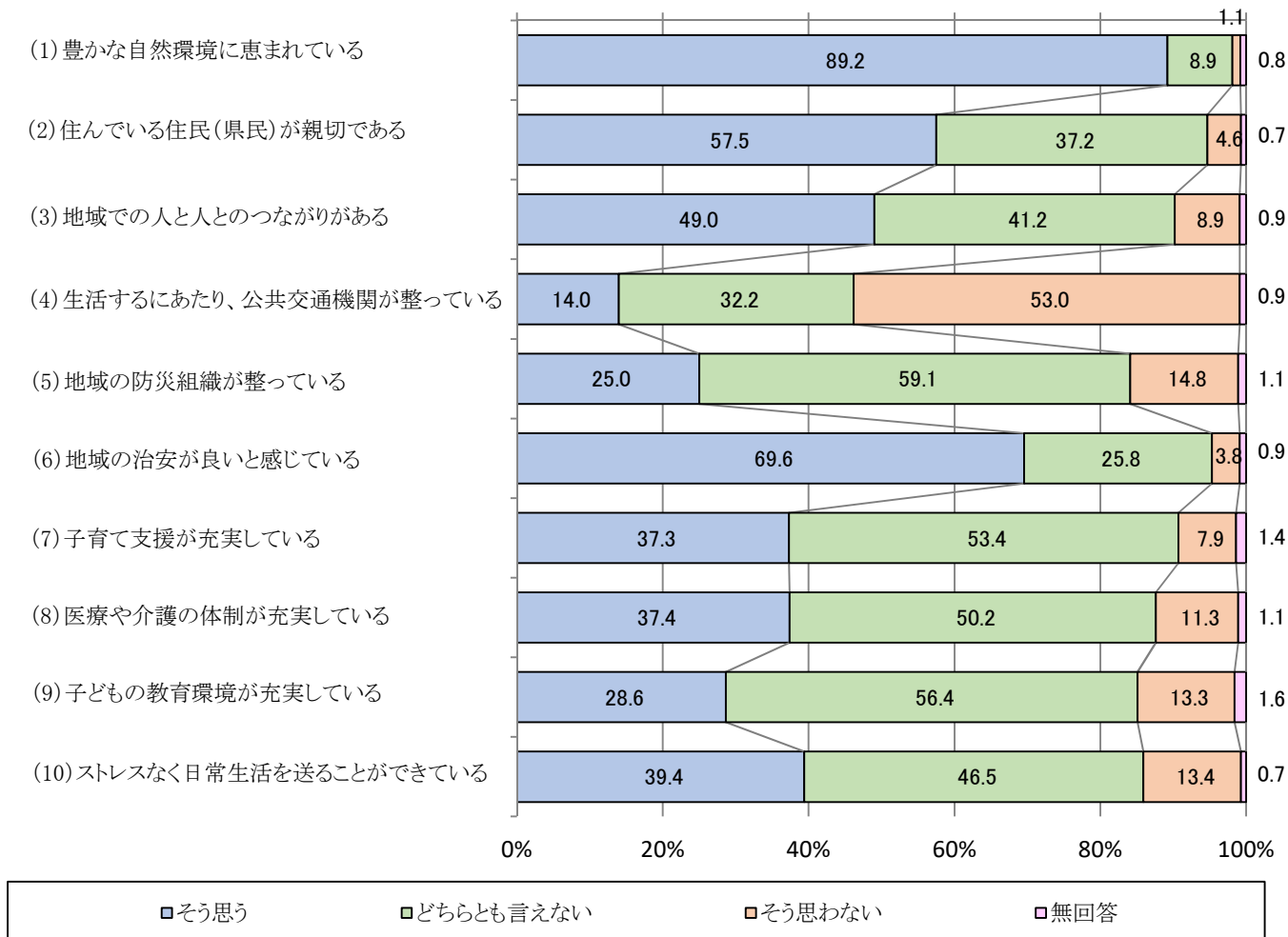
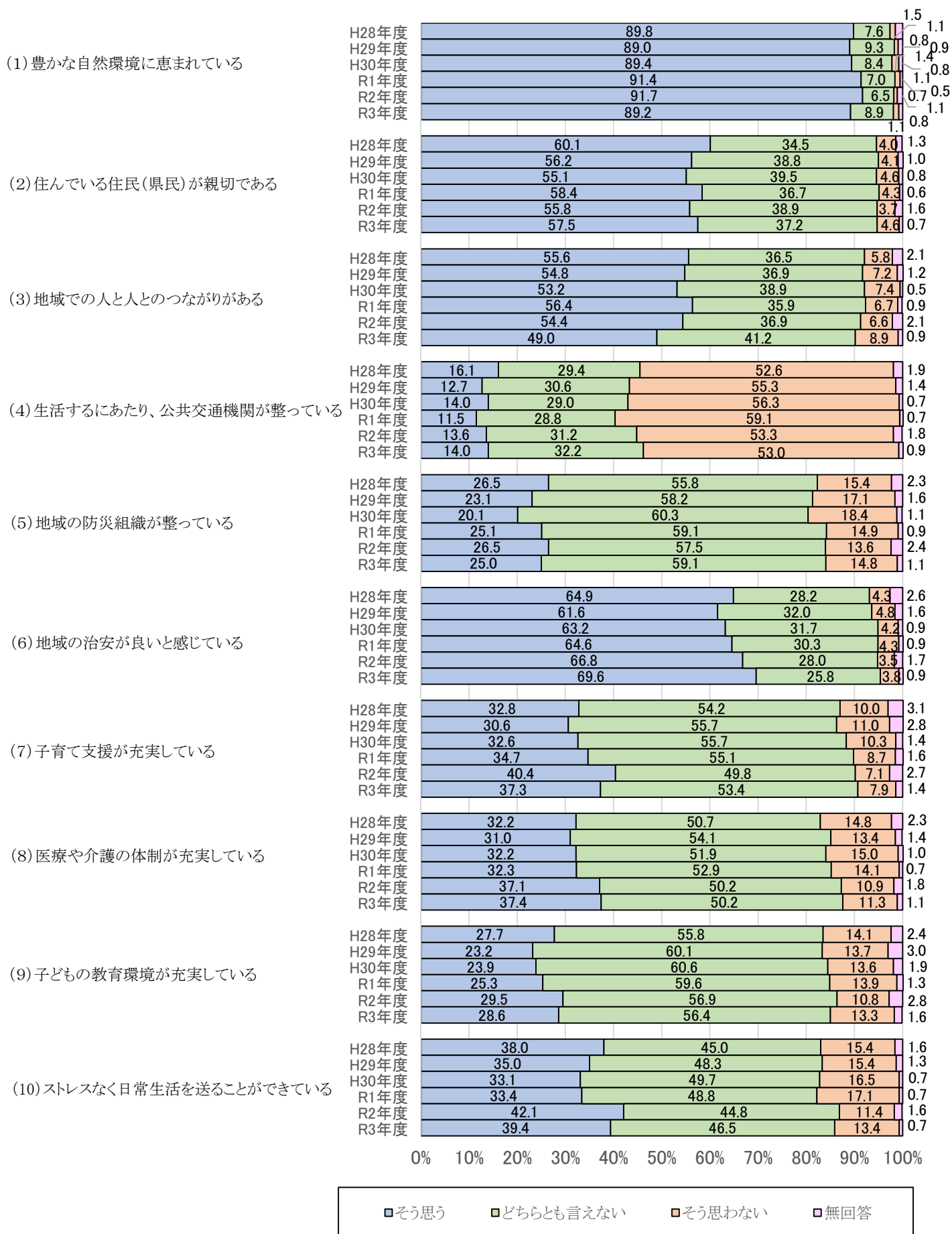


図8 鳥取県の暮らしについて(年次比較)



問4 鳥取県に暮らしていて、あなたは今の程度「幸せ」ですか。

～5「普通」から10「とても幸せ」が約9割～

幸福度について10点満点で質問したところ、5「普通」が27.2%と最も割合が高く、「8」が22.1%、「7」が16.5%、「6」が10.9%と続き、「5普通」以上と回答した割合は89.6%と、約9割となっている。

地域別でみると、幸福度「8」以上は西部が他の地域に比べ高くなっている。

図9 鳥取県に暮らしていて、「幸せ」ですか(年次比較)

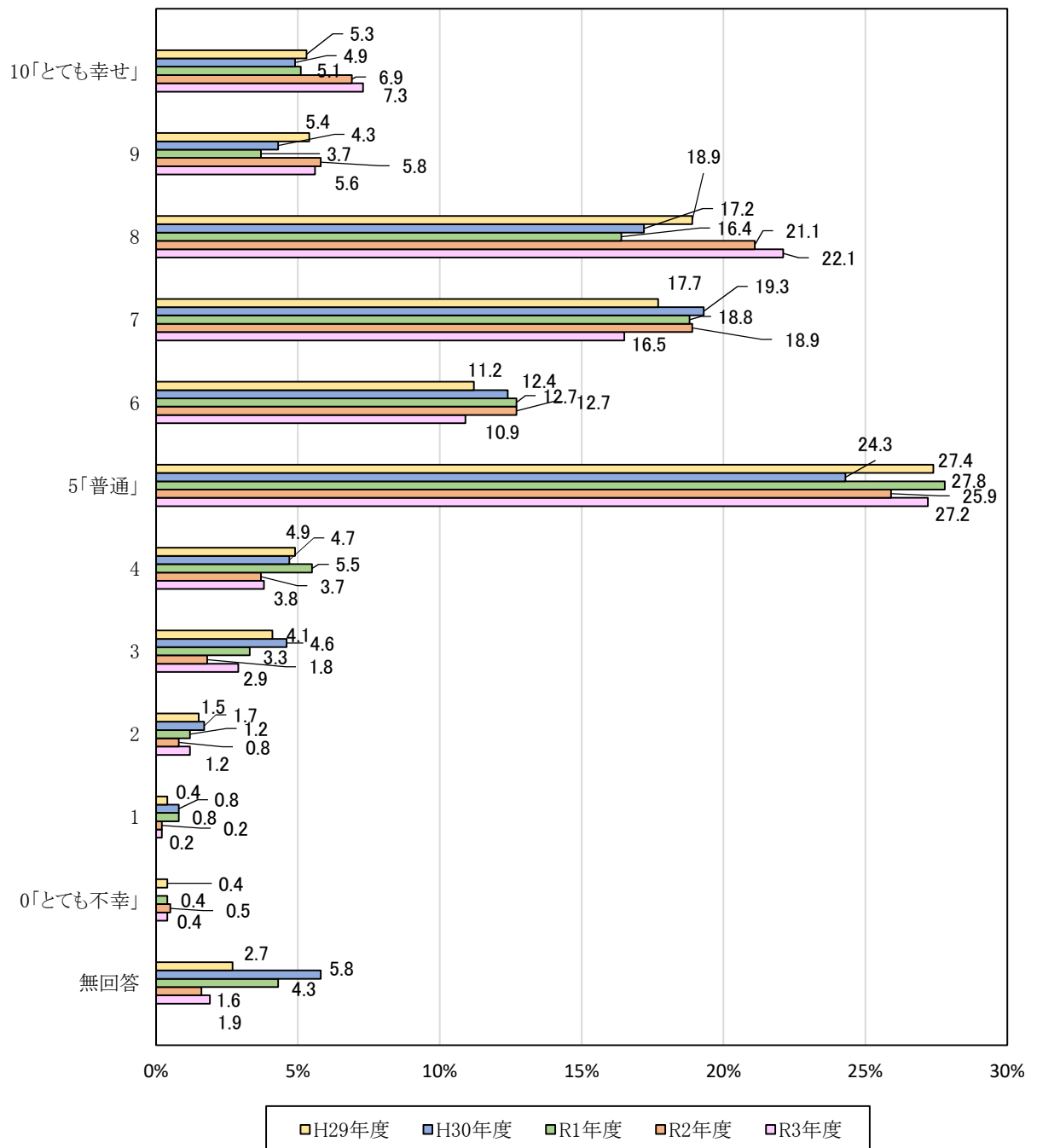
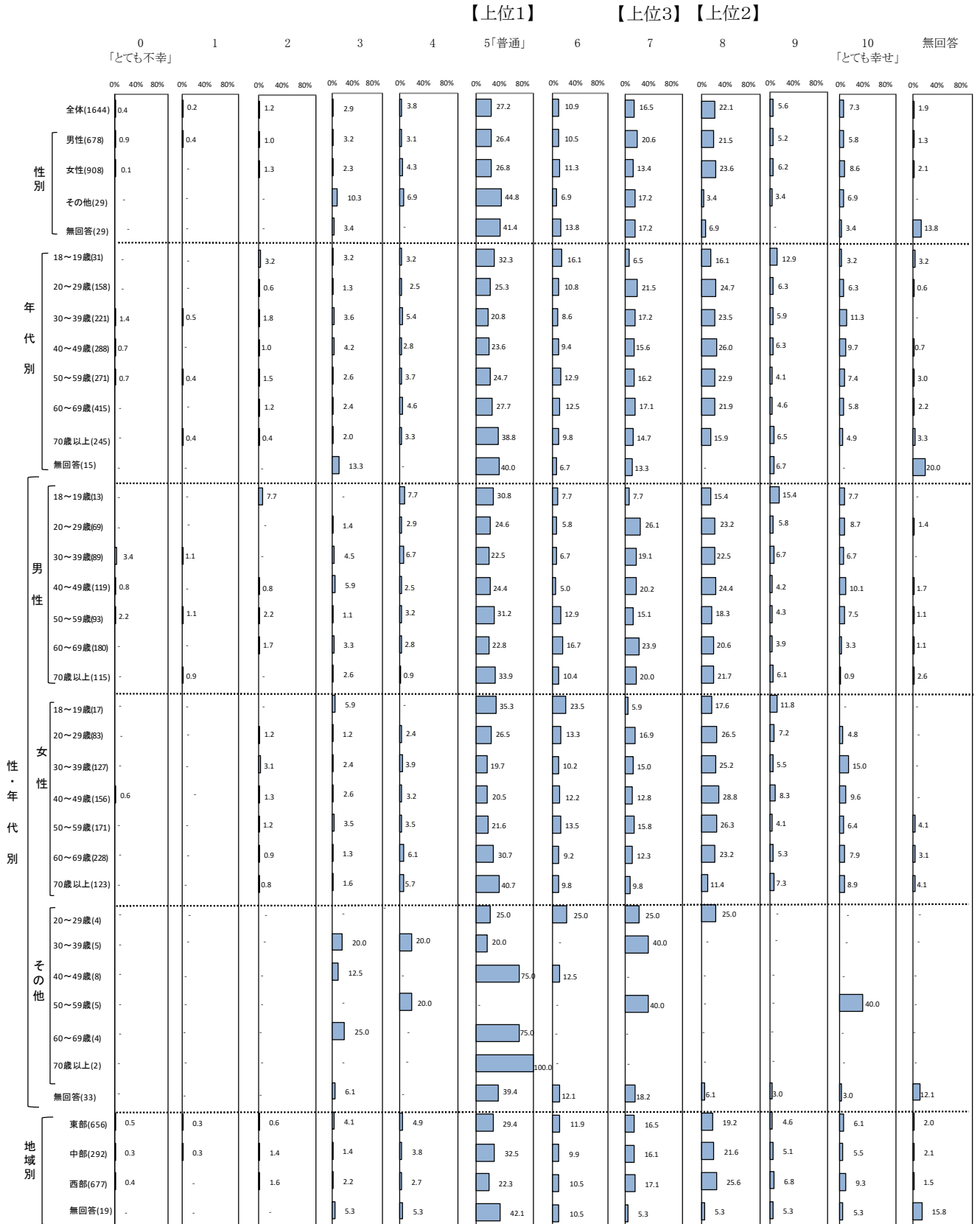


図 10 鳥取県に暮らしていて、「幸せ」ですか(性別・年代別・地域別)



問5 あなたの「幸福度」を判断するときに、あなたが重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

～「自身の健康の状況」「家計の状況」を重視～

幸福度を判断するときに重視することは、「自身の健康の状況」が69.3%と最も割合が高く、次いで「家計の状況」が66.9%、「家族関係」が58.9%となっている。

平成29年度-令和3年度を比較してみると、上位3項目は常に「自身の健康の状況」、「家計の状況」、「家族関係」となっている。また、「自身の健康の状況」、「家族関係」、「精神的なゆとり」については増加傾向となっている。

年代別でみると、「自身の健康の状況」は50歳代以上、「家計の状況」は30～50歳代で高くなっている。また、「自然環境(住みやすさ)」は年代が高くなるに連れ割合が高くなっている。

性・年代別でみると、「家計の状況」、「家族関係」は女性の30～60歳代、「友人関係」、「職場(学校)の人間関係」は女性の20～50歳代で高くなっている。また、「自然環境(住みやすさ)」は男性の40歳以上、「趣味などのいきがい」は男性の20～50歳代で高くなっている。

図11 「幸福度」の判断で重視すること(年次比較)

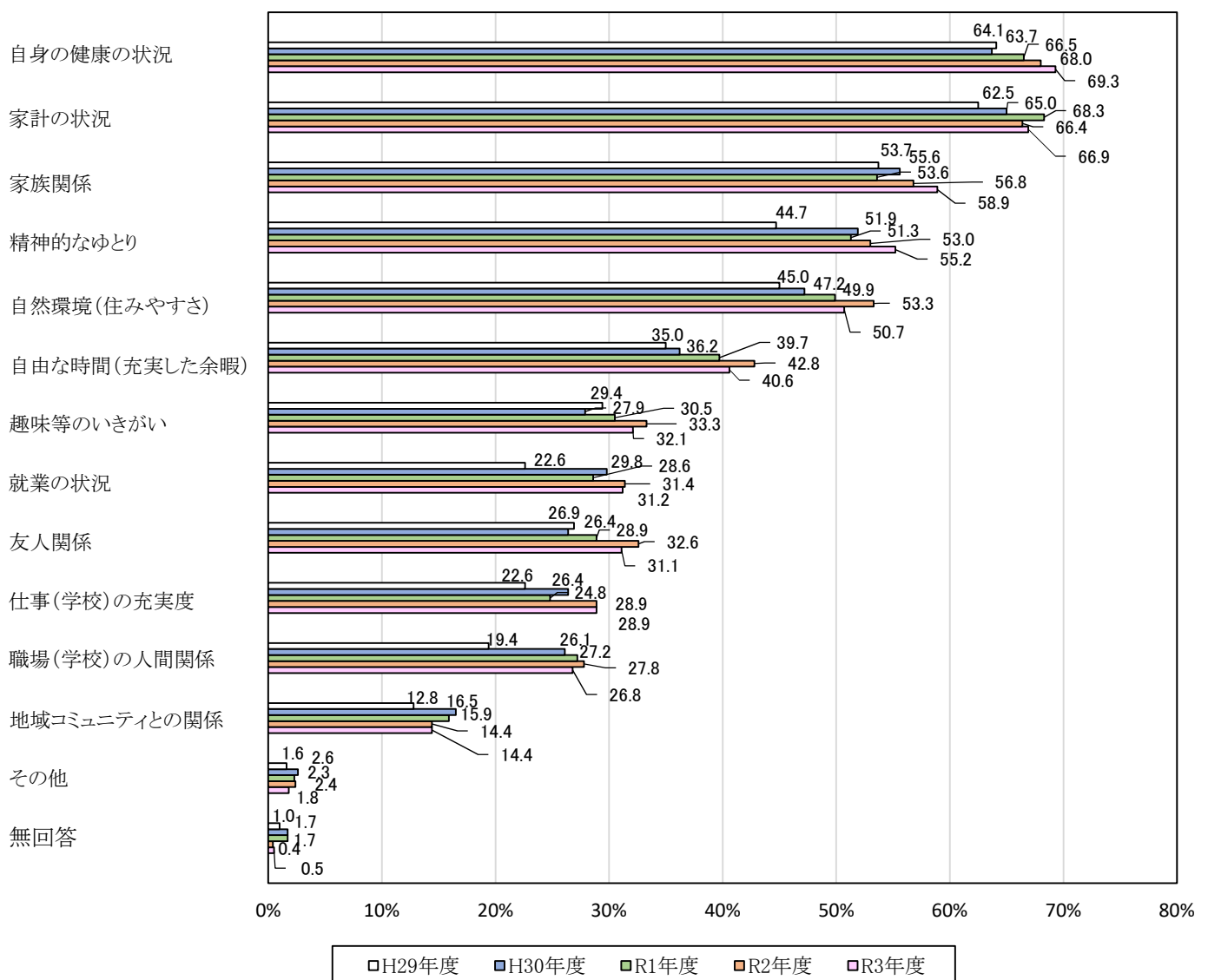


図 12 「幸福度」の判断で重視すること(性別・年代別・地域別)

【上位1】【上位2】【上位3】

